

bee happy project@tour vol.9(be@t9)

ツアー報告書



実施期間：2025 年 8 月 18 日(月)～2025 年 8 月 25 日(月)

実施場所：フィリピン セブ市

報告者：bee happy project 小林 美晴・中澤 栄理

私たち bee happy project は、社専ハロハロの会が企画する PET (Philippines Experience Tour) の卒業生によって立ち上げられた NGO サークルです。活動として、古着や文房具、福祉器具などの支援を行っています。

また、9 年前からは PET の流れを引き継ぐ形で、主に教育・福祉・子どもに関心をもつ方々を対象にスタディーツアーを実施してきました。

しかし、新型コロナウイルスの影響により、2020 年以降約 5 年間はツアーを企画できずにいました。

そして今年、5 年ぶりに新たなツアーを企画し、現地を訪問することができました。

1. 概要

- ・ 目的： 現地の子どもたちの様々な暮らしに触れセブの子育て・子育て支援のお仕事をしている方と交流し、自分の力を活かす旅。ツアーでは **bee happy project** も関わっている社会福祉施設や幼稚園、孤児院などの子どもたちを中心に交流や保育実践などを行います。
- ・ 訪問先： フィリピンセブ島 セブ市内にある
現地受け入れ先教会が実施する社会福祉活動（デイケアセンター、奨学金プログラム）を行う施設や
家庭保育園、小学校（公立幼稚園）、
セブ州郊外の子どものためのデイケアセンター
マザーテレサの乳児院
観光地（マゼランクロスなど） ビーチリゾート など
- ・ 宿泊先： タラベラ黙想の家、コスタベラビーチリゾートホテル（最終日）
- ・ 参加人数： 6 名（内 2 名は **bee happy project** メンバー）

2. 日程表

日付	午前の活動	午後の活動
8 月 3 日（日）		参加者渡航説明会 事前準備作業
8 月 18 日（月） 8 月 19 日（火）	（訪問・活動） 就学前教育「プレイグループ」 公立小学校	成田より出国～フィリピンに入国 （観光） サントニーニョ、マゼランクロス、 カルボンマーケット、サンペドロ要塞、トップス
8 月 20 日（水）	（訪問・活動） 現地受け入れ先教会（ルーデスパリッシュ）見学 フィーディングセンター配食同行	（訪問・活動） デイケア（就学前教育施設）訪問 奨学金プログラム受給生と交流
8 月 21 日（木）	（訪問・交流） 奨学金受給している学生宅を 4 カ所訪問	デイホームステイ
8 月 22 日（金）	（訪問・活動） セブ郊外 保育園（デイケア）	（訪問・活動） 奨学金プログラム受給生と交流 （テーブルゲーム）
8 月 23 日（土）	（訪問・活動） 奨学金プログラム受給生と交流 （ウェルカムプログラム）	（訪問・活動） マザーテレサの乳児院訪問
8 月 24 日（日）	マクタン島 リゾートビーチ訪問	海水浴など
8 月 25 日（月）	セブ空港より出国	日本に帰国

3. 詳細報告

>8月3日（日）

渡航説明会と事前準備

参加希望者に団体の紹介やツアーの歴史・目的、注意事項などを説明しました。あわせて、現地に持参する古着やお土産の整理・箱詰め、子どもたちとのアクティビティ準備を実施しました。約半年で集まった物資は100キロを超えました。

>8/18（月） ツアー1日目

成田から直行便でセブへ。約5時間でマクタン空港に到着し、現地コーディネーターのレジーナさんと再会しました。街を抜け、宿泊先「タラベラ黙想の家」へ。山の中腹に位置し、屋上からはセブシティの夜景を望める場所です。

>8/19（火） ツアー2日目

ニワトリの鳴き声と朝日に起こされ1日が始まりました。まず活動拠点であるルルドの聖母教区教会（ルーデスパリッシュ）を訪問し、教会が運営する就学前教育（プレイグループ）の3〜4歳児10名のクラスに参加。算数の授業を見学し、一緒にプリントや「カズー」づくり、準備していた風車で遊ぶなど交流しました。午後は市内観光で、マゼランクロス、サントニーニョ教会、そしてセブを一望できる展望台TOPSを訪れました。

>8/20（水） ツアー3日目

朝から教会の運営するフィードリングプログラムへ。コロナ前は教会内の施設へ来て昼食を食べる形式でしたが、現在は作った給食を持って地域へ届けるようになっています。私たちが到着すると、あちこちからお皿を持った人々が集まってきます。配食前に集まってきた子どもたちと交流。一緒にダンスを踊ったり、風車で一緒に遊んだり。給食を配るのをお手伝いしました。

午後は、地域の中にある小さなデイケアセンター（就学前教育施設）へ。この時間は20名ほどの子どもたちが来ていました。英語で歌を歌って私たちを歓迎してくれました。授業の様子を見せてもらい、その後は私たちと折り紙で交流しました。夕方は、スカラーオフィスで小学生と交流。日本から持って行った工作が大人気でした。

>8/21（木） ツアー4日目

午前中は、スカラーシッププログラムを受給している子どもたちの家庭を訪問しました。街全体を見ると、以前に比べてお店や車の数が増え、発展している雰囲気があります。しかし、人々が暮らすエリアに入ると、基本的な景色は大きく変わっていないように感じました。それでも、家が少し広くなっていたり、電化製品が増えていたり、生活の質の向上が垣間見えます。実際にお宅の方にお話を伺い、日々の暮らしの工夫や変化を感じました。

午後からは、現地のお宅でデイホームステイ。ホストファミリーと一緒にゲームを楽しんだりしながら、現地の人々の暮らしを体験した印象深い日となりました。

>8/22（金）ツアー5日目

この日は、セブシティから車で北へ約1時間の場所にある、リロアンという町のデイケアセンター（就学前教育施設）を訪問しました。セブシティのにぎやかさとは対照的に、のんびりとした田舎の風景が広がる穏やかな町です。

事前の情報では子どもは40人弱と聞いていましたが、実際に訪れてみると70名もの子どもたちが集まっており、用意していた工作の材料が足りなくなるハプニングも。急遽、手持ちの素材を工夫してなんとか間に合わせ、子どもたちと一緒に工作やダンスを楽しみながら交流しました。昼食には、地域のお母さんたちが心を込めて用意してくださったフィリピン料理をいただきました。

午後はオフィスに戻り、小学生や高校生のスカラーたちと交流。日本から持参したボードゲームで遊びながら、楽しい会話が繰り広げられていました。

>8/23（土）ツアー6日目

土曜日、学校はお休み。スカラーの子どもたちはオフィスに集まって活動をする日です。この日は、ウェルカムパーティーを開いてくれました。ダンスや楽器演奏で歓迎してくださり、私たちも練習してきた「カップス」を披露し「エビカニクス」「I LOVE CEBU」を一緒に躍り楽しい時間を過ごしました。午後からは、マザーテレサの乳児院を訪問し乳幼児との交流、その後、SMシーサイドという大きなショッピングモールへ行き、買い物などそれぞれ自由に過ごしました。

>8/24（日）ツアー7日目

セブの魅力をもっと知って欲しいと、のツアーの最後の1日はリゾートホテルで過ごすことにしています。きれいな海で泳いだり、プールサイドでのんびりしたりして、旅の最後を楽しむことができました。

>8/25（月）ツアー8日目

朝4時に起床し、5時に出発。まだ静かなビーチで朝焼けを眺めながら、旅の思い出に名残惜しさを感じました。その後、空港へ向かいお世話になったレジーナさんたちとお別れ。「また会いましょう」と約束して帰国の途につきました。

4. 写真



(8/3 事前準備)



(8/18 出国)



(8/19 プレイグループ)



(8/19 公立幼稚園)



(8/19 観光マゼランクロス)



(8/20 配食同行)



(8/20 家庭保育園)



(8/20 奨学生との交流)



(8/21 奨学生宅へ訪問)



(8/21 デイホームステイ)



(8/22 リロアンのデイケア)



(8/22 奨学生と交流)



(8/23 ウェルカムパーティ)



(8/23 奨学生と交流)



(8/23 マザーテレサの乳児院)



(8/23 ショッピングモール)



(8/24 リゾートビーチ)



(8/25 帰国の朝)

5. まとめ

今回のスタディーツアーは、5年ぶりの開催となりました。事前準備では、半年かけて集めた古着や文房具など100キロを超える物資を整理し、現地の子どもたちと楽しむアクティビティの準備を重ねてきました。ソフィア会から頂いた助成金は、子どもたちとの工作や交流活動のための材料等の物品費などや、現地の幼稚園や小学校の先生方と教材の研究に使用させていただきました。

滞在中は、教会が運営する就学前教育やフィーディングプログラム、デイケアセンターなどを訪問し、子どもたちと歌や工作、遊びを通して交流しました。また、スカラーシッププログラムを受給している家庭への訪問や、デイホームステイを通じて、現地の人々の生活を間近に感じることもできました。都市部の発展を感じつつ、人々の暮らしの中にある社会問題や教育・福祉に関すること、教会の活動などを感じ、考えた1週間でした。

帰国の日、朝焼けに染まる海を眺めながら、旅の名残惜しさと共に、ここで得た出会いや経験をこれからにつなげていきたいと強く感じました。今回のツアーは、参加者一人ひとりにとって、教育や福祉、そして「出会いの大切さ」を改めて考える貴重な時間となりました。